



第102号

平成23年2月4日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel:025(265)4111 Fax:025(265)4112
URL: http://www.niigata-net.or.jp/kentokushien/
E-mail: tokusi@niigata-net.or.jp
発行: 文久堂

豊かな独り立ちに向けて



新潟県特別支援研究会
副会長 竹内 淳一郎

公教育制度開始以前、地域のさ
らなる豊かさや家族の幸せ、そし
て、何よりも子どもの将来の幸せ
に向け、主に家庭や地域が教育を
担ってきました。やがて社会の近
代化に伴い寺子屋等での集団教育
が行われるようになりましたが、
様々な状況やニーズ等の十分な把
握は、家庭や地域における教育同
様に行われ続けました。それは、
個々の自立に向けた目標が明確に
なることで、一斉に授業しながら
も、集団の中で解決できるような
配慮を個々に行うことにより、個
にも集団にもより良い成果を得る
ことができるからだと考えます。

さて、私は現在行われている個
別の指導計画や、個別の教育支援
計画を柱とした特別支援教育は、
かつての寺子屋などで行われてい
た教育にとっても似ていると感じて
います。それは記録の明確さなど
の違いはあれ、両方とも子どもの
生い立ちや現在の状況、そして保
護者や本人の願いを把握し、将来
への長い目標(長期目標)に向け、
その時々での当面の目標(短期目標)
を設定し支援を行うからです。当
然その中では、長期目標達成に向
けての短期目標が地域や家庭状況
その子どもの学習の到達度、適性
や能力などに合っているかを見直
す評価を繰り返し行います。なぜ
なら、そうした取り組みを続ける
ことが、子どもたちが将来地域で
より豊かに生活するための知識や
技能を獲得するための確かな支援
方法につながるからです。

このような考えでいくと、初等
教育や中等教育段階において、障
害のある子どもが大半の時間を通
常学級で教育する実践(インクル
ーシブ教育)には、大きな可能性
があるように感じます。しかし、
早急なインクルーシブ教育への移
行には、様々な解決すべき課題が
あるように思えます。

その一つには現代の学校が置か
れた現状があります。現代人は江
戸時代に比較して、数万倍の情報
量の中で生活していると言われて
いますが、人生にかかわる教育と
いうとても重要な部分では、膨大
な情報の取り扱いにも細心の注意
が必要です。また昨今の多様な価
値観への対応には、すでに現在の
特別支援教育においても、多くの
時間や労力を費やしています。適
切な支援を行うには、情報の取り
扱い一つをとっても、より多くの
配慮や検討が必要なのです。私た
ちはこうした疑問な点を十分に議
論し、より確実な教育の成果を子
どもたちに十分保障しながら、イ
ンクルーシブ教育を進めるべきだ
と考えています。

現在文科省では三年間の特別支
援教育実施の実績を踏まえ、穏や
かなインクルーシブ教育移行に向
けての話し合いが進んでいます。
現状をしっかりと見据え、障害の
有無にかかわらず、子どもたちの
豊かな独り立ちを、今後も支え統
けていきたいと願っています。

平成二十三年度
主な行事予定

- 五月 第一回理事評議員会
 - 六月 各研究部研修予定集約
 - 七月 会報103号発刊
 - 八月 関プロ神奈川大会(9日)
上越地区特別支援教育研究大
会 上越市北部大会(10日)
 - 十月 全特連全国大会岐阜大会
(27、28日)
 - 十一月 下越地区特別支援教育研究
大会 阿賀町大会(8日)
中越地区特別支援教育研究
大会 長岡大会(25日)
佐渡地区特別支援教育研究
大会 なし
 - 二月 第二回理事会
会報104号発刊
- 各研究部の研修は、それぞ
れの研修計画に沿って実施し
ます。

平成二十二年度 特別支援教育研究大会

各研究大会の報告

上越地区

柏崎・刈羽大会

平成二十二年八月十九日(木)、刈羽村生涯学習センターを会場として「平成二十二年度上越地区特別支援教育研究大会柏崎・刈羽大会」を開催しました。

大会主題「地域とつながり、途切れない支援の実現」のもと、柏崎市刈羽郡学校教育研究会、柏崎市刈羽郡小中学校長会連絡協議会と共催で行われました。

地区内から幼保、小・中、養護学校、高校の職員、保護者等、四百七十人の参加がありました。

分科会は、「幼保・小学校・福祉機関の連携」「クラス作りと学校の支援体制」「関係機関と連携したクラス作り」「関係機関と連携した進路支援」「特別支援学校及び小・中学校におけるキャリア教育」「地域での生活」の六つで行われました。会員や関係者の方からの話題提供のもとに、子どもたちへの支援の在り方について、協議がなされ、最後にアドバイザー

から貴重な助言をいただきました。

また、全体会では新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事、中島秀晴様から「新潟県における特別支援教育の現状と課題」というテーマで御指導をいただきました。

講演会は、1000人を超える参加者となり、北海道大学大学院教授、田中康雄様から「ライフステージから『途切れない支援』について考える」という演題で講演をいただきました。

発達障害の子どもたちへの途切れない支援のため、学級での対応や集団作り、学校間並びに保護者や地域関係機関との支援連携等についてさらに研修を深めることができました。(事務局 柏崎市立大州小学校)



中越地区

魚沼大会

魚沼市内の全小・中学校と小出養護学校から委員を出して実行委員会を組織し、十月五日(火)、魚沼市立広神西小学校で標記の研究大会を開催しました。「一人一人に寄り添い、豊かに生きる力をはぐくもう」の大会主題のもと、六つの分科会と講演会に総勢二百七十五名の参加がありました。各分科会の参加者数は次の通りです。

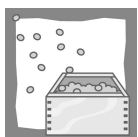
- ① 「知的障がい、自閉症・情緒障がい(小学校) : 五十六」
 - ② 「知的障がい、自閉症・情緒障がい(中学校) 三十四」
 - ③ 「言語障がい・難聴 : 三十一」
 - ④ 「病虚弱、肢体不自由、重複障がい : 十五」
 - ⑤ 「発達障がい、通級 : 五十七」
 - ⑥ 「育成会、保護者の会 : 三十五」
- 分科会では、学級担任や魚沼市内の保護者会関係者から話題提供を、また、指導主事様や特別支援学校長様方にはコーディネーター



をお願いしました。学校での支援はもちろん、学校と家庭・地域との連携方法等にかかわる貴重な情報交換が活発に行われました。

新潟大学教育学部教授の長澤正樹様からは、「通常学級における特別支援教育」特別な対応をすべての子どもに」という演題で、教育的ニーズに応じた具体的な支援の在り方等について多くの示唆をいただきました。

(事務局 魚沼市立広神西小学校)



下越地区

新潟大会

平成二十二年度の下越地区特別支援教育研究大会新潟大会が十一月二十六日(金)、新潟ユニゾンプラザで開催されました。大会主題を「可能性と個性を伸ばし、共に成長するための支援を求めて」とし、全体会と分科会を行いました。



当日は、雨天ではありましたが、下越各地から約二百名の参加者で全体会場が埋め尽くされ、空席がないために途中で椅子を用意するほどでした。開会式では、新潟市教育委員会教育長の鈴木廣志様から御祝辞をいただき、その後、新潟県教育庁義務教育課特別支援教



育推進室副参事の外山武夫様から全体指導をいただきました。全体指導では、県の施策と特別支援教育の今後の方向について、貴重な御指導をいただきました。

分科会では、「大空タイムの実践」「個別ニーズに応じた支援」「みんなと一緒に学習しながら、泳力を伸ばす水泳指導」「かわり合いを求めて」「広汎性発達障害児の構音指導事例」「通級指導教室における親の会の取組」について発表者から提案がありました。その後、分科会ごとに活発な意見交換が行われるとともに、指導者から適切な御指導をいただき、今後の指導に役立つものとなりました。研究大会に関わった数多くの皆様

様に深く感謝申し上げます。
(事務局 新潟市立結小学校)

全特連全国大会鳥取大会

鳥取県は人口六十万人弱、小・中・特別支援学校合計二百十校という小さい県ですが、関係者の熱い意気込みと温かなもてなしの心で開催された。

【大会主題】
自分らしく豊かに生きる
ともにつながり、深め、
拓く特別支援教育

【期日】平成二十二年十月二十八日・二十九日

【会場】米子コンベンションセンター ほか

【全体会】
表彰式 全特連功労賞
本県から吉田俊雄前会長

○開催地研究報告
地域にねざした倉吉養護学校の取組「圏域における機関コ

ーディネーターの役割」
○全特連研究奨励賞受賞報告
知的障がい学級における「も

のづくり」と「できる状況づくり」塩竈市立第三小学校
千葉雅弘教諭

○行政説明
特別支援教育行政の現状と課題
文科省特別支援教育課

○基調報告
全特連 松矢勝宏理事長
記念講演

○発達障がいのある子への気づきと支援 鳥取大学地域学部
小枝達也教授

【分科会】
十会場、十八の分科会に分かれ熱心な協議が行われた

全特連関西大会・山梨大会

【大会主題】
「すべての子どもが豊に生きるための支援をめざして」

【期日】平成二十二年八月六日(金) ※五日(木) 理事会

【会場】
全体会・都留市文化ホール
文科会・都留文科大学

【記念講演】
「みんなが輝く教育を！」今、子どもたちがに必要な教育とは

講師・教育ジャーナリスト・編集者
元内閣教育再生会議委員
北海道大学大学院教育学研究科附属子ども発達臨床研究センター学外研究員

品川 裕香 先生
【本県大会派遣役員】
第一文科会 特別支援教育を推進する学校経営・校内体制

チーム「一人一人のかがやきづくり」特別支援教育の視点に立った教育活動の推進

提案発表者
上越市立飯小学校
小林 啓一 校長

○第十一文科会(各教科等を合わせた指導「日常生活・遊び」
テーマ「実態把握チェックリストを活用した日常生活の指導」

提案発表者
新潟県立高田養護学校
間島 広明 教諭

提案発表者
新潟県立高田養護学校
間島 広明 教諭

知的障害部

○研究主題

「障害児者のよりよい生活を指して」

○研修会名

知的障害部全体研修会

○研修会の期日及び会場

・期日 平成二十二年八月十日
・会場 新潟県立生涯学習推進センター ホール

○参加人数

百六十二名

○講演者

上越市福祉交流プラザ 障害者相談支援センター 相談支援専門員 中屋万里子様

○会の概略と成果

- ①上越市の障害者相談支援の概要
- ②相談支援の特色とその役割
- ③福祉サービスの利用
- ④地域での過ごし方
- ⑤学校や家庭でできること

【成果】

御自身の豊富な事例をもとに講演をいただいた。地域生活において様々な困難に直面しつつも、周りのサポートを受けて自立する方法や、学校や家庭生活で身に付けるべきヒントをいただき、たいへん有意義な研修会であった。

(事務局)

新潟市立新津第一小学校

自閉症・情緒障害部

○研修テーマ

「発達障害のある児童・生徒の理解と支援のあり方」

○研修会名

自閉症・情緒障害部研修会

○研修会の期日及び会場

平成二十二年八月十一日(水)
新潟市万代市民会館

○参加人数

二百三名

○シンポジスト及びテーマ

県立柏崎養護学校 上松 武様
県立出雲崎高校 金子 直子様
養護教諭

特別支援教育研修会

各部の研修会報告

病弱肢体 不自由部

○ねらい

全会員を対象として、専門家から、指導法に関し指導・助言をいただく。

○名称

病虚弱・肢体不自由部研修会

○期日

八月十九日(木)

○会場

新潟県立月ヶ丘養護学校

○参加人数

十八人

○講師

月ヶ岡養護学校教諭

(障がい者就労・生活支援センターこしじ)

新潟自閉症協会 小林 義昭様
会長 森山 光子様

「就労現場や高校でのお子さんの姿を通して感じる学校教育の課題、家庭での課題」

○会の成果

シンポジストより、高校現場、福祉、保護者の各立場から、就労の現状と課題について話題提供をしていただいた。参加者との質疑・意見交換が熱心に行われた。どの子もその子らしく生き生きと働くことのできる社会にするためには教育や福祉の果たすべき役割が大きく、現場や人のつながりの重要性を知ることができた。
(事務局 長岡市立千手小学校)

○内容

「医療機関等との連携について」
県立月ヶ岡養護学校での実際を講義形式でお話しいただいた。その後、「身体ほぐしの実際」という内容で、養護学校で実践されている身体を和らげるマッサージについて実際に身体を動かして指導を受けた。

(事務局 三条市立三条小学校)

言語・難聴部

○総会及び研修会

・期日 平成二十二年 八月五日(木)

○会場

柏崎市 東京電力柏崎エネルギーホール

○参加人数

百五十一人

○議事

- ①平成二十一年度事業・会計報告
- ②平成二十二年事業・予算審議
- ③役員選出及び承認
- ④幹事会報告

○講演会(講師)

LD学会特別支援教育士 スーパーバイザー 山田 充様 (演題)

「読み書きの指導」基礎理論と指導について」

○成果

これまでも言葉や漢字の教材を数多く開発されている山田先生からニーズの高い演題での御講演で、会員外の参加も大変多かった。LDや読み書きのつまづきの背景要因、アセスメント、具体的な支援・指導、教材の紹介とすぐに日々の指導に生かせる内容で、大変有意義な研修であった。

(事務局)

新潟市立万代長嶺小学校